

## 女川第4小学校支援プロジェクトと鈴木ナオミさん(報告書に代えて)

被災率90パーセントを超えるという甚大な被害を受けた宮城県女川町。その女川港から約7キロ沖合に、出島(いずしま)があります。出島と寺間のふたつの集落があり、漁業に従事している島民約500人が住んでいました。しかし、3,11の津波で、ほぼ全戸が押し流され、全島民が避難しました。25人が亡くなりました。現在は、島の高台の仮設住宅、女川の仮設住宅、石巻市の仮設住宅と、島民たちはバラバラに暮らしています。

徐々にですが、養殖生け簀なども直し、漁業再開に向けて動き出してはいますが、本格的な再開は難しく、島に戻っているのはほとんどが高齢者だけとなっています。子どもがいる家族、若い働き手たちは島を離れ、今後、島での生活は、望めない状況となっています。

この島には、県内一小さな女川第四小学校と、女川第二中がありました。小学校の生徒は6人、中学校は13人です。今どちらも、町内の学校にそれぞれ間借りをして授業を行っています。

震災で避難している子どもたちが自ら元気になるために、そして島の人たちも元気にするために、企画されたのが、女川第四小全生徒教師バンドです。とっておきの音楽祭を共催し、また音楽を通して支援活動をしているNPO法人オハイエ・プロダクツが校長から相談され、公益社団法人日本フィランソロピー協会の寄付金で、2011年8月末から、毎週定期的に、打楽器奏者斉藤寛氏を講師にして、総合の学習の時間でカホンを中心にした打楽器ワークショップを行ってきました。練習が進むほどに子供たちの笑顔が戻ってきています。生徒たちが打楽器と歌、校長先生や先生たちがメロディを担当し、「明日があるさ」を演奏しています。2011年11月の女川町民を迎えての学芸会、12月には神戸に招かれての交流会での演奏では、予想を超えたレベルに会場からは拍手と手拍子が起きました。

2012年3月のお別れ会、そして2012年6月に仙台市で開催された、鈴木ナオミさんがフィナーレに出演した、とっておきの音楽祭のストリート演奏にも出演しています。この出演が第1期の目標でした。ここまでの、公益社団法人日本フィランソロピー協会の支援で活動を行いました。

第2期は、2012年10月に行われた学芸会での演奏が目的です。女川町には、第4小を含め4校の小学校がありましたが、出島での学校再開は困難となり、第4小学校は、2013年3月をもって閉校することになりました。つまり、2012年11月の学芸会は、第4小の最後の学芸会となりました。鈴木ナオミさんから頂いた支援金は、この学芸会に向けてのワークショップ開催費用として使わせていただきました。さらに、この支援金は、被災地沿岸部で継続的に開催しているLIVEハマウタにも活用させていただいています。

10月から11月の本番まで、週1回、多いときは週3回、仙台・女川間往復5時間、担当スタッフと講師、アシスタントたちが通いました。2011年の夏に出会った頃の子供たちは自信を失い、笑顔すら見せませんでした。最後の学芸会では、満面の笑顔で堂々と演奏して

いました。この笑顔は、町の人々の希望です。やはり音楽のチカラは絶大です。

女川第4小は閉校してしまいますが、このワークショップを拡大して、女川の子供たちを対象とするプロジェクトを企画している段階です。

あの日から2年が経とうとしています。ガレキは以前より目立たなくなりましたが、現実には、復興とは程遠い状況です。あの忌まわしい記憶、そして厳しい環境は、人々の心を蝕んでいます。自殺する人たちが増えていることも、そのことを如実に表しています。今の課題、いえこれからの長い課題とされているのが、「心の問題」と「この震災の記憶の風化」です。この心の問題を音楽のチカラだけでは解決できませんが、少しでも心を和ませる、生きる楽しさを知らせるには、音楽のチカラは必要です。

また記憶の風化に対して、現地から絶えず発信していかなければなりません。それに対し受け止めてくれる、見守っていただくことが、風化を防ぐ最大のチカラとなります。私たちは、「忘れないでください」と事あるごとに、地域外に出向いたとき、訴えています。

ナオミさんのこの2年間にわたる言動は、この二つの困難な問題にいつも向き合ってきました。いつも心に寄り添っていることを訴えそして行動し、直接的間接的に音楽のチカラで、被災地の人たちを元気づけてくれています。これを継続的に行っているというのは、稀有ですし、2011年7月から2012年11月まで5回もこちらに来ていただき、その行動力と思いには敬服しています。絶えず連絡を取り合っているせいかもしれませんが、ロンドンと仙台、約1万キロ離れてはいますが、ナオミさんの心はいつもそばにあるような気がしますし、元気な声もすぐ近くから聞こえるようです。

ナオミさんの「いつもあなたたちと共にいる」。それが今、最も必要なことですし、これからも望まれることです。物心両面にわたるご支援ありがとうございます。

2013年1月17日

NPO法人オハイエ・プロダクツ 理事長  
とっておきの音楽祭実行委員会SENDAI企画プロデューサー  
菊地昭典